



財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC)

JAPIC NEWS

No.284

2007

12

Contents

■ 巻頭言

「COE とグローバルCOE」

東京大学大学院薬学系研究科長・薬学部長 柴崎 正勝 2

■ インフォメーション

iyakuSearch Plusリリースのお知らせ 4

日本医薬品名事典—医療薬・一般薬—の発行 6

平成19年度上半期収支状況報告 6

年末年始休業のお知らせ 6

■ トピックス

韓国薬学情報院の来訪 7

JAPICサービスの紹介(9) JAPICが編集発行する書籍・雑誌・CD-ROM 8

医学・薬学教育の現場で利用される

「JAPIC医療用・一般用医薬品集CD-ROM」と「日本の医薬品構造式集」 10

■ シリーズ

東南アジアの医療事情(20) カンボジア[3]

カンボジアのこともたちは... 国立国際医療センター 国際医療協力局 垣本 和宏 11

■ 図書館だより No.210 15

■ 情報提供一覧 15

COEとグローバルCOE

東京大学大学院薬学系研究科長・薬学部長

柴崎 正勝 (Masakatsu Shibasaki)

JAPIC評議員



大学で教育、研究に携わっていない方々には興味の無い話かもしれませんが、COEとグローバルCOEに関して状況説明をさせていただきたいと思います。

今から約6年程前になると記憶しておりますが、文科省から突然COE開始のアナウンスがありました。最初は何の事かさっぱり分かりませんでした。よくよく調べてみると、COEとは21世紀Center of Excellenceの事で、新しい世紀を記念して全国の大学の中にそのような拠点を設けようというものでした。すべての大学あるいは部局にとりまして大問題であります。資料を取り寄せてみますと、研究水準等を示すデータ、COEでの研究計画、予算案等膨大な資料の作成が必要である事が分かりました。他大学でも同じであったと思いますが、私が所属する東大大学院薬学系研究科も必ずやCenter of Excellenceに選ばれなければならないという強いプレッシャーを感じた事が強烈な印象として残っております。

このCOEはいくつかのセクションに分かれています。薬学系研究科は必然的に生命科学の分野に応募する必要がありました。私達は、薬学系研究科を中心として分子細胞生物学研究所の数名の教員からなる拠点、すなわち「戦略的基礎創薬科学」で応募する決断をしました。代表者として、杉山雄一教授が最適任ということになり、彼を中心として様々な研究計画案の作成、あるいは研究水準を

アピールする資料の収集から作業を開始しました。最も苦しんだ点は、「戦略的基礎創薬科学」にうまく適応する研究計画案をいかに作成するかでありました。皆様御承知のごとく、薬学系研究科は約20前後の研究室がそれぞれ興味のある研究に全力投球しているのが実状であります。この研究室間の壁を低くして「戦略的基礎創薬科学」というCOEを設置出来るか否か多くの議論がなされました。COE構想は大学人の意識改革をするという点で大成功であったと思います。幸いにも、私達には基礎創薬科学に繋がる二つのプロジェクトが動きつつあり、これを核とした研究計画案を作成する事ができました。膨大な資料の作成後、まず書面審査という一次選考を受けなければなりません。幸運にも一次選考をパスし、次はヒアリングという二次選考が待っていました。二次選考では、特に医学部関係者から鋭い質問が数多くありました。いろいろな質問があったのですが、ポイントは創薬の基礎研究をやるというけれども、大資本の製薬会社の研究に対抗出来るのかということだったと記憶しております。5年前は、そのような質問に対する理論武装が十分でなく、杉山教授も随分苦労されたと思います。このように紆余曲折はありましたが、我々の「戦略的基礎創薬科学」はCenter of Excellenceに採用されました。このCOEは今年の3月で終了したのですが、薬学系研究科に多くの変革をもたらしてくれました。一番の収穫は研究

室間の壁が低くなった事であり、さらには有機系の教員と生物系の教員間での研究上の信頼関係も強まりました。前述の理論武装の不完全さは、いまでは自信を持って以下のように返答する事が出来ます。大学には未発表の数多くの生物学研究データがある。このデータを活用し、高水準の有機化学を組み合わせた研究を実施するならば、大資本の製薬会社とは特徴を異にする研究展開が可能なはずである……。さらには、大学院生が主催するシンポジウムも毎年開催され、大学院生の意識改革にも大きな影響を与えてくれたように思います。このように21世紀COEは選出された拠点にとりましては、有形無形の大きな成果を与えてくれたと信じています。

我々のCOEの終了直前にまたしても大きな構想が文科省からアナウンスされました。グローバルCOEの開始宣言であります。21世紀COEは研究に重点を置いたCOEであるが、グローバルCOEは大学院博士課程の学生に重点を置くCOEであり、さらには選ばれる拠点数は21世紀COE拠点の半分になるというものです。我々が感じた事は、大成功したCOEを継続することは財務省との関係で無理なため、大学人を又々苦しめる新しい制度を文科省が計画したのだなというものでした。膨大な資料の作成の為に大学人の教育、研究の時間が相当に裂かれてしまう事を文科省の方々は分かっているのだろうか？ いいかげんにしてほしいというのが素直な感想でした。拠点数を半分にするということは、単純に考えますと21世紀COE拠点の連合が必須であるように感じられました。

東京大学ではまず基礎医学と理学部がまとまって一拠点として応募しました。薬学系研究科はどのように対応したかですが、大変悩みました。その理由は薬学部6年制がスタートし、ある意味で薬学部が混乱状態にあり、グローバルCOEの拠点に薬学が中心のものが必須であると考えたからであります。それと当時の安倍内閣のイノベーション25のトップに医薬が位置づけられていることもあり、これ迄以

上に優れた創薬科学者の養成が認められるのではないかという事を考え、分生研の一部の教員と一緒に薬学系研究科中心のグローバルCOEに応募することを決定しました。代表者は、研究科長の柴崎が担当しました。応募内容のポイントは今迄以上に生物学が理解できる有機化学者の養成、有機化学が理解出来る生物学者の養成であり、この点を中心に膨大な資料を作成しました。生命科学分野には東大から4件が応募したのですが、一次選考をクリアしたのは医一理連携拠点と私達の拠点でした。ヒアリングもそれなりに納得する形でできたのですが、残念ながら採択されませんでした。理由は、教育の事を何も言っていないという事ようで、病気の講義なくしてどうしてすぐ優れた創薬科学者が輩出できるのかということのようでした。もっとも生命科学分野は一大学一拠点という暗黙の了解事項があったようなので、どんなプレゼンテーションをしても不採択であったかもしれませんが、結果として生命科学分野で薬学中心の拠点は“ゼロ”となってしまいました。この悔しさをバネに来年度は、臨床医学と連携した形で再挑戦する予定です。

Information インフォメーション

iyakuSearch Plusリリースのお知らせ

iyakuSearchはJAPICが提供する国内外の医薬品情報に関するデータベースです。JAPICでは維持会員制度をとっており、会員機関の方を中心に医薬品に関する情報提供を行っております。これらの情報を会員・非会員を問わず、広く一般の方にも公開し、ご利用いただいておりますのがiyakuSearchです。ただ現在のサービスでは、別途ご契約が必要なデータベースが並んで表示されており、また、iyakuSearchの利用者登録をしていただくと文献抄録や医薬品名キーワード等の詳細情報をご覧いただくことができますが、利用のたびごとにIDとパスワードを入力してログインする必要があるため、必ずしも使い勝手の良いサービスとはいえません。

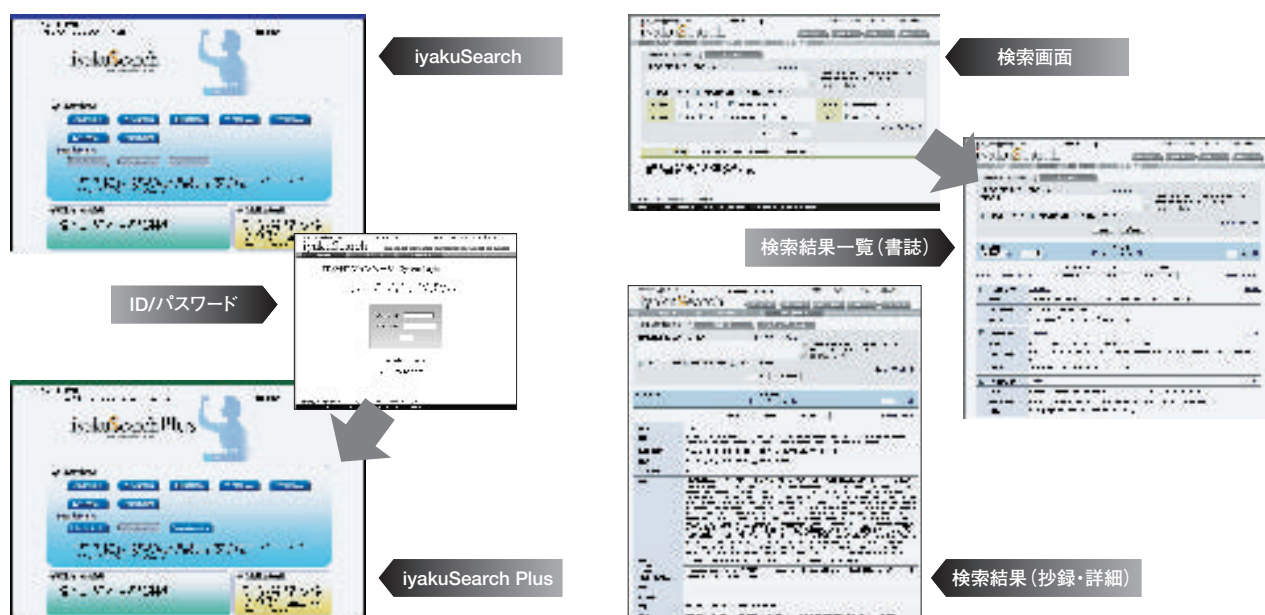
そこでこの度、ご登録いただいているユーザの利便性を向上させるためにiyakuSearch Plusをリリースし、認証機能を追加して登録者認証の簡便化を図ることといたします。

一方、iyakuSearchのコンテンツにはIDとパスワードを必要とせず、無料でご利用いただけるものがありますので、これらを集約し、無料のデータベースサービスとして画面構成を変更いたします（以下は開発中の画面ですので、実際とは異なります）。

1. iyakuSearch Plusのリリース（すでにIDとパスワードを所有しているユーザ向け）

IDとパスワードをお持ちの登録利用者向けに新しいトップページiyakuSearch Plusをリリースします。従来のiyakuSearchからログインしていただくと、iyakuSearch Plusのトップページが表示されます。

iyakuSearch Plusでは、ログインする際のID・パスワードといった認証情報が利用者のパソコン内にクッキーとして保存されるため、次にiyakuSearchにアクセスしていただくと自動的にiyakuSearch Plusに誘導され、再度ID・パスワードを入力する必要がありません。また、利用者IDは利用者情報・所属機関情報と連動しているため、iyakuSearch Plusのトップページでは利用者ごとに利用可能なデータベースアイコンが一覧されます。



2. iyakuSearch (無料で利用できるコンテンツを一覧表示にまとめます)

iyakuSearchはID・パスワードをお持ちでない方でもすべてのサービスを利用することができる、無料のデータベースサービスとなります。

iyakuSearchトップ画面または検索結果一覧画面から利用者登録申込みの画面へアクセスすることができます。JAPIC維持会員機関に所属されている方は登録料金は無料です。非会員機関の方は年間10,000円の登録料金をいただいております。



3. 規制措置情報データベース

規制措置情報(JAPIC Daily Mail)は海外および国内の規制当局等のホームページから医薬品および医療機器の安全性に関する規制措置情報を電子メールにて提供しているサービスで、2004年1月から配信情報をデータベース化してiyakuSearchでご契約機関に提供しております。

今後は、JAPIC Daily MailとしてiyakuSearch Plusから契約機関にご利用いただく予定です。

4. 電子ジャーナルとのリンク機能

登録利用者向けの機能追加として、検索結果詳細画面からJ-STAGE(JST)提供の電子ジャーナルへのリンク機能を搭載する予定です。約50タイトルの雑誌については抄録画面から直接原著を見ることができるようになります。

これらの改修は、2007年末を目途に作業をすすめておりますので、改修完了まで、いましばらくお待ちください。
新しいiyakuSearchのリリースにつきましては、本誌およびホームページ等にてご案内いたします。

「日本医薬品名事典」—医療薬・一般薬—の発行

2007年11月19日「日本医薬品名事典」—医療薬・一般薬—を発行しました。

本書は、わが国の医療の現場で使用されている医療用医薬品及び薬局・薬店等で一般に販売されている一般用医薬品のほぼすべて(約29,100商品)を網羅した医薬品名の索引的事典です。

医薬品の製品名と製造販売会社名、一般名、薬価・収載日、薬効分類が一見して分かるのが特長となっています。当センターが保有する膨大な添付文書情報データからこれらの事項のみを抽出・列挙して極めて簡便に利用できるようにしました。



A～F会員の皆様には本書を1部無償で贈呈しておりますが、更に追加購入ご希望の場合は、薬事日報社又は全国の書店でご購入、お申込みください。

価格・お申込み等

- 定価 3,990円(税込み、本体3,800円)
- A5判・全2色・1,138頁
- 販売 薬事日報社 TEL03-3862-2141 FAX03-3866-8408(注文専用)
- * 薬事日報社ホームページからもお申込みいただけます。

平成19年度上半期収支状況報告

- 事業活動収入は、7億300万円であり、前年同期より2,200万円減少しました。
科目ごとに見ますと、前年同期に比べて、「JAPIC Daily Mail収入」が800万円、会費収入が1,100万円それぞれ増加しました。一方、「国内文献学会情報収入」のうち「JAPIC-Qサービス収入」は、基本料金の値下げ等の影響もあり、前年同期に比べて2,200万円減少しましたが、予算に対する進捗を見ますと、順調に推移しています。また上半期は、「重篤副作用疾患別対応マニュアル第1集-」を刊行し、1,680円というお求め易い価格設定をしたこともあり、約2,000部の受注を頂きました。
- 事業活動支出は、5億1,100万円であり、前年より1,500万円減少しました。印刷費をはじめ、広報費、システム関連費用及び人件費等の主な科目は、予算に対する進捗を見ますと、順調に推移しています。
- 以上の結果、上半期の当財団全体の収支差額は、7,200万円の収入超過でありました。下半期においては、「医療用医薬品集2008年版」の収入及びそれに関する印刷費等の支出、また「iyakuSearch」並びに「添付文書」関連のシステム開発の支出を見込んでおり、概ね予算通りの執行を予定しています。

年末年始休業のお知らせ

年末年始休業:平成19年12月29日(土)～平成20年1月4日(金)

新年は1月7日(月)より業務を開始いたします。

T TOPICS

韓国薬学情報院

(Korea Pharmaceutical Information Center) の来訪

11月5日(月)韓国薬学情報院長のKIM DAE UP氏を初めとする薬学情報院、大韓薬師会の幹部総勢6名の方が来訪されました。韓国薬学情報院(KPIC)は謂わば韓国におけるJAPICのような組織で、かつJAPICを参考に設立され本年で7年目になるとのことである。KPIC設立前、1990年を皮切りに何度か参考のためにJAPICに来られたことがあるが、設立後フォーマルな訪問としては今回が最初である。

職員は25名とJAPICの約半数である。必要情報は政府の指令により収集し、政府、薬剤師向けの情報がメインであり、製薬会社との関係は疎遠である、ということで日本の場合と状態が若干異なる。即ちKPICの情報は、薬局、薬剤師向けで、処方過誤防止、適正使用等処方検討システムにフォーカスしている。提供情報についてはお国柄かIT化が進んでおり、書籍類はあまり需要がない、という話である。

JAPICの活動はホームページを良く見ており理解しているが、彼らの事業の今後の参考となるように、直に話を聴くのを主体に情報交換したい、というのが訪問目的であった。

JAPICから活動現況を報告後、各事業に対し細かい質問等が多くあり、昼食をとりながら3時間半の長丁場の会議となった。運営、予算、収益構造等の経営観点から、実際



韓国KPICの皆さん

の各事業については、必要な情報の入手方法、データベース化、普及方法等の日本の状況についてまで幅広い質問が多くあった。設立経緯、運営等JAPICとは相違があるので止むを得ないかもしれないが、KPICは韓国での製薬会社への情報提供が弱い為、その強化に関心を持っており、普及のためにはどうしたらよいか、との悩みがあるようである。その点でJAPICのQサービス、JDMには興味を持ったようである。

蛇足だが韓国では一般向けの医療、医薬品に対する啓発書籍は、日本と違って、何故かあまり売れないそうである。

会議の後JAPIC図書館を見学し、今後も目的に応じて情報交換会を持つことを約して会議を終了しました。

(MY記)



熱心な質問

JAPICサービスの紹介(9)

JAPICが編集、発行する書籍・雑誌・CD-ROM

JAPICは出版活動を通して医薬品情報を広く提供しています。現在会員の皆様にお届けしている書籍等は以下のとおりです。

【お問い合わせ】TEL:0120-181-276



JAPIC医療用医薬品集 ＜検索用CD-ROM付＞ (年刊) 2008



国内で流通する医療用医薬品を収載した医薬品集。検索用CD-ROMには医療用医薬品集、一般用医薬品集、薬剤識別コード一覧、薬価情報、後発品の全情報を収録。



JAPIC一般用医薬品集 (年刊) 2008



国内流通の一般用医薬品(OTC) 12,000製品を収録。付録として配置販売品目指定基準、一般用医薬品のリスク分類、ブランド名別成分比較表等を収録。



添付文書記載病名集 2006



添付文書に記載の「効能・効果」と「標準病名およびICD10コード」を結び付けDPCにも対応している。保険請求に役立つ薬価、同成分・同規格商品を記載し、後発品の確認も可能。



日本の新薬—新薬承認審査報告集 2006



平成10年1月～平成18年10月承認分までの厚生労働省の審査報告書の全文を収録。全25巻で402品目を収録。



日本の医薬品構造式集 ＜検索用CD-ROM付＞ (年刊) 2007



国内汎用医薬品の構造式をまとめた書籍・国内で販売されている医療用医薬品のうち、一部の高分子製剤、低分子製剤などを除く約1,300成分の構造式を収録。



重篤副作用疾患別対応マニュアル 2007



厚生労働省の重篤副作用疾患総合対策事業として平成17年度から4年間の計画で作成される「重篤副作用疾患別対応マニュアル」の第1集。Webで公開されている。19マニュアルを書籍版としてまとめたもの。

→ **JAPIC日本薬品名事典—
Drug Index in Japan 2007**



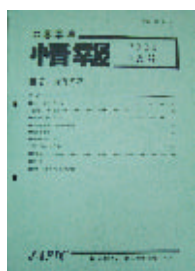
国内で流通する医療用・一般用医薬品約29,100商品を網羅した事典。製品名、製造販売会社名、一般名、薬価、収載日、薬効分類が一覧できます。

→ **医薬品製造（輸入）承認品目一覧
（年刊）2006**



新規承認医薬品をまとめたもの。厚生労働大臣の承認に係る医薬品について医療用・一般用医薬品に分けそれぞれ商品名の50音順に配列しています。

→ **医薬関連情報（月刊）2007**



会員限定資料。海外のニュース、主要医学文献、行政の通達など医薬品とその周辺の関連情報（規制、副作用、有効性、新薬）を取り上げ収載しています。

→ **JAPICJ（ジャピックジャーナル）
（年2回）2007**



JAPIC開催の講演会、研究会の記録をまとめ会員向けに配布しています。

→ **JAPIC Guide（年刊）2007**



JAPICのサービス内容全般についてまとめたもの。図書館所蔵資料の解説も収載。

→ **JAPIC NEWS（月刊）2007**



JAPICの機関誌。

→ **<CD-ROM>**

JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版 2007



国内の全医療用・一般用医薬品を収録したWin・Mac両対応のCD-ROM。年4回の発行。医療用医薬品添加物データ、医療用医薬品構造式イメージデータ、院内採用医薬品編集機能付。

→ **添付文書記載病名集 CD-ROM 2006**



個々の医薬品の添付文書と「ICD10対応電子カルテ用標準病名マスター」（MEDIS-DC提供）に基づいて、添付文書の効能効果から抽出した病名と標準病名を拡大解釈することなく関連付けを行ったものの。

■ 医学・薬学教育の現場で利用される 「JAPIC医療用・一般用医薬品集CD-ROM」と 「日本の医薬品構造式集」

JAPICでは2006年から従来の「医療薬日本医薬品集」を廃刊し、新たにJAPIC「医療用医薬品集」として独自に編集・発刊し発売も「じほう」から「丸善」に変更しました。これを機に従来の価格を大幅に値下げし、お求めやすい価格とし、本年も2008年版として9月1日に発売いたしました。医療薬学の要請が進む中で、医薬品についての知識や技能の習得を補い、多少でも医学・薬学教育の発展と高度化に役立てていただきたいと願い、全国の薬科大学・医科大学へ「JAPIC医療用・一般用医薬品集CD-ROM」版や「日本の医薬品構造式集」を贈呈しております。本活動の一端を簡単にご紹介します。

先ず2005年に全国の薬科大学の1年生向けに「日本の医薬品構造式集」を1年生全員分について無償で進呈しました。2006年、2007年と3年にわたり継続した結果、いくつかの大学では教科書として積極的に使っていただくようにもなりました。構造式には多くの医薬品情報が内蔵されており、薬学に携わろうとする新1年生に医薬品についての感覚を磨くツールとして活用してもらうことを目的としています。本事業は来年度も継続する予定であります。

2006年からは「JAPIC医療用・一般用医薬品集CD-ROM」を、4年生を対象に贈呈しております。本CD-ROMは“くすり”になじむための格好の教材であり情報源であるものと理解しております。薬学教育の現場で活用していただくことを目的としています。

2007年の実績は全国の薬科大学72校より約16,000枚の贈呈希望が寄せられ、10月末にお届けしました。

さらに対象を広げ全国の医科大学・医学部の4年生向けにも同様のCD-ROMを贈呈しました。全国医学部長病院長会議事務局よりご案内していただいたところ、80大学より約9,300枚の贈呈希望が寄せられ11月初旬にお送りしました。

薬科大学での利用状況

利用状況を伺った結果、4年生での利用が多数ありましたが、1年生～3年生時に利用している大学もあり、その利用状況は次のとおりです。

■ 4年生

学習時の参考資料として・国家試験対策用・自分の使っている薬について調べる・卒後に役立てたい・臨床薬学実習の処方解析の情報源として。

■ 3年生

医薬品情報学・基礎情報科学の実習・DI演習教材・検索時の参考資料として・病院実習・薬局実習・新薬論・医療薬学系実習・医薬品化学の講義・臨床薬学実習。

■ 2年生

医薬品情報学。

■ 1年生

情報処理演習の医薬品情報検索・実習演習

その他薬学部教員や専任教員に配布し講義の参考に活用している、と回答がありました。JAPICの医薬品情報が薬学教育の現場で活用されていることがわかります。

Series シリーズ

～東南アジアの医療事情 (20)～



カンボジア [3]

カンボジアのこどもたちは・・・

国立国際医療センター 国際医療協力局

(元・カンボジアJICA母子保健プロジェクト主席顧問 現・インドネシア保健省JICA保健政策顧問)

垣本 和宏 (Kakimoto Kazuhiro)



乳幼児の死亡率

カンボジア保健省の2005年の調査結果によると、1歳未満の乳児死亡率は1,000の出生に対して66で、5歳未満児の死亡率は1,000の出生に対して83でした。2000年の調査結果ではそれぞれの数値が95と124であったことから、カンボジアの乳幼児の死亡率には目覚ましい改善が見られています。カンボジア政府はこれまで、予防接種事業の拡大、安全な水への支援、母乳哺育促進事業などを実施しており、一定の成果が見られたと評価できるでしょう。しかし、これらの数値は東南アジア諸国の中ではまだまだ劣悪な状況であり、日本での数値の20倍近くになっています。



カンボジアの子供たち。10名に約1人は5歳の誕生日を迎えられません。

母乳は子供の体に悪い(?)

多くの途上国では不衛生なミルクによって多くの子供たちが下痢症などで命を落としており、不衛生なミルクによる人工乳哺育は乳児死亡率などに影響しているとして問題となっています。そのため、カンボジアでも母乳哺育が推進されていますが、筆者がカンボジアに初めて赴任した約6年前は、「貧困国」と思えぬほど粉ミルクによる人工乳哺育が多く、哺乳瓶でミルクを飲んでいる赤ちゃんをいろいろなところで見かけました。

ある診療所で、哺乳瓶でミルクをあげている母親に「な

ぜ、母乳をあげないの?」と尋ねると、その母親は「母乳は子供の体に悪いから・・・」と答えました。しかし、その母親があげていた哺乳瓶の底には泥が沈殿しており、決して衛生的なものではありませんでした。さらに「子供の体に悪い」との情報を広めているのは、地元の粉ミルク販売店であることもわかりました。ほとんど保健衛生教育を受けていない母親はこのような情報を素直に信用したのです。これは悪徳な商法なのか知りませんが、もしかしたら、その地元の粉ミルク販売店も本気でそう考えたのかも知りません。実は、このようなことはカンボジア国内の多くのところで起きており、誤った情報がカンボジア国内に広がっています。内戦終了後に多くのものが外国から輸入されるようになり、何でも、新し



母乳哺育方法の研修。乳房モデルを使って授乳方法を学んでいます。

い物や外国から輸入されたものは「良い物」とする迷信もあったのかも知れません。

現在では、カンボジア政府は助産師などの医療従事者に対して正しい母乳哺育や乳房ケアの方法などの研修を実施して母乳哺育促進活動が進んでいます。

妊婦と新生児

カンボジアの乳児死亡の3分の1以上は生後28週間以内の死亡で、新生児ケアに対する支援も重要です。カンボジアのお産の半数以上は、伝統的産婆(Traditional Birth Attendant: TBA)と言われる助産師資格も持たない地域の産婆さんによって介助されています。妊産婦死亡率も高いカンボジアでは、このTBAに対しての正しいお産や新生児ケアの知識を研修する協力も多くのNGO支援によって実施されています。また、助産師も多くが見様見真似で技術を学んできただけなので、助産師育成のあり方や現在働いている助産師への再教育も大きな課題になっています。

赤ちゃんは100米ドル

カンボジアのいろいろなホテルでよく見かける風景ですが、カンボジア人と見られる1歳前後の子供と欧米人と見られる夫婦の家族をホテルのロビーやレストランにあちらこちらに目にすることがあります。カンボジアに赴任したばかりのとき、あまりに気になるのである家族に声をかけてみました。「どちらの国からですか。可愛いお子様ですね。」「私たちはアメリカから来ました。この子は孤児なので私達家族と養子縁組をして育てることにしたのです。今はアメリカ大使館からのビザを待っているの…。

あなたはこちらで働いているのですか。」「

「私はカンボジアの国立母子保健センターで勤務しています。」「

「そしたら、その病院には孤児も何人かいるでしょうね…。もう一人買ってみようかな…。」

カンボジアは欧米、特にアメリカにとって孤児の養子縁組が盛んに行われている国です。そのためか、孤児との養子縁組を斡旋している業者がいくつもあります。一件の養子縁組に対して、欧米からの依頼者はパッケージ料金で約1万米ドル(約120万円)を支払うことにより、カンボジアまでの旅費や諸経費が支払われ養子を得ることができます。ですから「もう一人買う」との意識なのでしょう。聞くところでは、このようなケースは年間500



TBAへのお産の実習。ダンボールから赤ちゃんの人形ができています。

件以上あるそうです。ここでの問題は、本当は孤児でない子供を孤児として斡旋していることがあることです。つまり、親が生活苦から自分の子供を売る人身売買の場合があるのです。斡旋業者は生活が苦しい親に約100ドル(約12,000円)を支払い、親は自分の子供を業者に売ることになるのです。他の国に比較して国の制度が脆弱で、孤児の認定も容易なので欧米のビザがとりやすいことが理由のようです。カンボジアの公務員の月給が20から25米ドル(約2400円から3000円)ですの
で100米ドルは生計を助けるには大きなお金ですが、人権に対する認識は国民のなかではまだまだ低いのでしょう。



保育器でのケア。まだまだ、カンボジアにはこのような保育器は多くありません。

ここでもエイズが・・

また別の問題はエイズ遺児の問題です。性交渉で感染するHIVは若い女性に感染していることもあり、出産後に母親がエイズにより死亡し、場合によっては父親もエイズで死亡して子供は遺児となります。親をエイズで亡くして孤児院などに収容されたエイズ遺児にも養子縁組の対象となる子供が多くいます。カンボジアではエイズ遺児の増加により欧米からの養子縁組希望者が増え、そのためにこれを斡旋する業者も増えたとも言われております。今、カンボジア政府や欧米の大使館も対策に乗り出しましたが、政府の役人は賄賂で書類を簡単に偽造することが多いため、いくら規制を厳しくしても問題はなかなか解決しません。

家族からの愛も

カンボジアでは未熟児が生まれると、「もう、この子は育たない」と親が見離すケースがよく見られます。未熟児が自宅出産で生まれると家族や親戚、近所にも生まれた未熟児を隠し、ひどいときにはゴミのようにどこかに

捨ててしまうことも珍しくありません。そして、すぐに次の子を妊娠します。その背景の一つには、未熟児に対する偏見として、未熟児は何らかの罰として生まれてきたと信じる者もいます。また、未熟児は弱いので育てるのにお金がかかるとか、子供は家族にとって労働力であることが多いので、労働力にならない未熟児は家族に不要と先入観をもっていることがあるからです。そして、何より人間の命や人格への尊厳について正しく理解できていないことが挙げられるでしょう。

筆者が勤務していた国立母子保健センター内の病院でも、出産した未熟児を家に連れて帰らないことは珍しくはありませんでした。また、直接未熟児室を訪れて「誰かもらえそうな赤ちゃんはいないでしょうか」と尋ねてくる人もいます。そして、このような人の多くはその子供を人身売買にかけていることが多いとも聞きました。

さらには、未熟児治療の途中でお母さんが強引に赤ちゃんを退院させて家に連れて帰ってしまうこともよくあります。お母さんと赤ちゃんがいっしょに帰宅しないと近所から偏見の目で見られることなどが原因です。このケースは意外と多いのが事実で、せっかく医師看護師らががんばって治療していてもお母さんの協力が得られないと治療が中断し、結果として、子供に命を救えないだけでなく未熟児医療のレベルの発展が遅れてしまいま



赤ちゃんに面会に来た父親。なるべく早くからの親子のスキンシップが大切です。

した。これらの問題を解決するために、未熟児でも早期の母乳哺育を開始するなどの母と子のスキンシップを通じて、保育器に入ると難しくなりがちな母子相互関係を積極的に築くことを促進しています。カンボジアでは痛切に「家族の愛」の大切さを感じます。

おわりに

カンボジアのシリーズも今回が最後の稿となりました。カンボジアは復興を開始してから15年ですが、カンボジアの状況やボルボト時代を含む長期の内戦の影響を少しでもご理解いただけましたら嬉しいです。カンボジアは緊急的な復興の時期から、やっと開発のための落ち着いた国づくりに本格的に乗り出した時期に入ってきたと言って良いでしょう。

一方で、近年ではアフガニスタンが戦争からの復興に努力していますが、カンボジアの復興の経験も活かされるようになりました。実際に、アフガニスタンからはカンボジアに社会システム再建の経験を学ぶためにあらゆる分野で研修員がカンボジアを訪れております。また、国立国際医療センターからも、カンボジアの復興開発の経験者が世界の多くの国に派遣されて活躍しております。

また、筆者は現在インドネシアの保健省に赴任しておりますが、先日はカンボジア保健省の母子保健担当官数名をインドネシアに招き、インドネシア保健省の母子保

健担当官と技術交換ワークショップを実施しました。その中で、インドネシア保健省は、カンボジアの急速な発展ぶりに驚き、カンボジアには学びたいものがあると発言しておりました。現在では、カンボジアは単なる一つの被援助国ではなく、その急速な復興の経験を世界に発信する役割も担うようになったのです。

(完)

(カンボジアは今回で終了します。次号からベトナム社会主義共和国を連載します。)

【新着資料案内 平成19年10月11日～平成19年11月14日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。
閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

＜配列は書名のアルファベット順＞

書 名	出版社名	出版年月	ページ	定 価
European Pharmacopoeia 6.0 6th edition Supplement 6.1 著者名/Council of Europe	Council of Europe	2007年9月	313p	¥18,270
保険薬事典 Plus+ 平成19年8月版 (適応・用法付 薬効別薬価基準) 著者名/薬業研究会 編	じほう	2007年8月	954p	¥4,830
医療用医薬品識別ハンドブック 2008年版 著者名/じほう	じほう	2006年10月	600p	¥5,250
今日のジェネリック医薬品 改訂第2版 著者名/北村 正樹 編	南江堂	2007年10月	636p	¥2,940
日経DIクイズー服薬指導・実践編ー9 著者名/日経ドラッグインフォメーション 編	日経BP社	2007年10月	163p	¥4,900
オレンジブック保険薬局版 2007年10月版 著者名/日本薬剤師会 編	薬事日報社	2007年9月	350p	¥4,515
オレンジブック総合版'07 著者名/日本公定書協会 監修	薬事日報社	2007年9月	294p	¥5,250
すぐに役立つ消化器画像用語事典 著者名/佐野 幹夫、西川 孝 編	永井書店	2007年10月	214p	¥4,410
糖尿病関連注射薬の新展開ーインスリン・GLP-1・グルカゴンー 著者名/難波 光義 編	フジメディカル出版	2007年11月	128p	¥3,360
薬効別薬価基準 保険薬事典 平成19年8月版 著者名/薬業研究会 編	じほう	2007年8月	860p	¥4,620

 情報提供一覧

【平成19年11月1日～11月30日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等	データベース一覧	更新日
＜出版物等＞		＜iyakuSearch＞	http://database.japic.or.jp/
1.「日本医薬品名事典ー医療薬・一般薬」	11月19日	1.医薬文献情報	月 1 回
2.「医薬関連情報」11月号	11月30日	2.学会演題情報	月 1 回
3.「Regulations View Web版」No.147	11月30日	3.医療用医薬品添付文書情報	月 2 回
4.「添付文書入手一覧」2007年11月分 (HP掲載)	11月30日	4.一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
5.「JAPIC NEWS」No.284	11月30日	5.規制措置情報	毎 日
＜速報サービス等＞		6.臨床試験情報	随 時
1.「医薬関連情報 速報FAXサービス」No.609ー613	毎 週	7.日本の新薬	随 時
2.「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」	毎 週	8.学会開催情報	月 2 回
3.「JAPIC-Q Plusサービス」	毎月第一水曜日	＜JIP e-InfoStreamから提供＞	https://e-infostream.com/
4.「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」No.1582ー1602	毎 日	1.「JAPICDOC速報版 (日本医薬文献抄録速報版)」	月 1 回
5.「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」No.215ー218	毎週月曜日	2.「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」	月 1 回
6.「PubMed代行検索サービス」	毎月第一・三水曜日	3.「ADVISE (医薬品副作用文献情報)」	月 1 回
		4.「MMPLAN (学会開催予定)」	月 1 回
		5.「SOCIE (医薬関連学会演題情報)」	月 1 回
		6.「NewPINS (添付文書情報)」(月2回更新)	月 2 回
		7.「SHOUNIN (承認品目情報)」	月 1 回
		＜JST JDream IIから提供＞	http://pr.jst.go.jp/jdream2/
		「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」	月 1 回

JAPIC日本医薬品名事典

Drug Index in Japan (医療薬・一般薬)

定価
3,990円



わが国で流通する医療用・一般用医薬品 約29,100品目を
収載しています。

製品名、製造販売会社名、一般名、薬価、収載日、薬効分類が
一覧できます。

JAPIC日本医薬品名事典の特長

- わが国の医療の現場で使用されている医療用医薬品約17,800品目および国内に流通する一般用医薬品約11,300品目を掲載しています。
- 製品名と製造販売会社名、一般名、薬価、収載日、薬効分類が一見してわかるのが特長です。
- 医療用医薬品、一般用医薬品を製品名のアルファベット順および五十音順に並べています。会社名のあとに後発医薬品を表示しています。

編集・発行：財団法人日本医薬情報センター 発売元：薬事日報社 体裁：A5

お問い合わせ先 ☎ TEL 0120-181-276 ☎ FAX 0120-181-461
販売：薬事日報社 TEL 03-3862-2141 FAX 03-3866-8408

ガーデン

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。
リフレッシュどうぞ!!



あおい科アブチロン（いちび属）。外来種。よつて、アブチロンという。因みに、アプロチンでも同じ検索ができる。品種名でチロリアンランプという。この名前は、確かにこの花のイメージをあらわしている。名前を知らずして、この花の名前を検索するに、「ちようちんのような花」でみつかった。そこで、和名を「ふようぼんぼり」とつけてみた。花は枝垂れ咲きとなり浮釣草の名もあるようだ。葉は芙蓉やむくげによく似ている。花もよく見ると、まるで同じだ。このごろ園芸店では、和名があるのに、わざわざ学名や属名をとったりして、カタカナの名前を付けている。 (ks)

ふようぼんぼり（アオイ科）

JAPIC ホームページより
<http://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン